

**大阪府立天王寺高等学校**  
**平成30年度 第1回学校運営協議会**

日時：平成30年6月30日（土）10時00分～11時30分

場所：大阪府立天王寺高等学校 校長室

**1. 開会**

**2. 校長挨拶**

学校運営協議会として、第1回の開催。年度末には来年度の学校経営計画を承認していただくことになる。

**3. 学校協議会委員委嘱**

- ①教育庁からの委任状手交。任期は2020年3月まで。
- ②天王寺高校の運営協議会の実施要項、傍聴に関する要領を定める。
- ③会長・副会長選出。

**4. 協議**

**(1) 本年度学校経営計画について(資料の説明)**

- ①学校をめざす学校像、中期的目標の説明。新規項目として、教員の「働き方改革」を立てた。
- ②GLHS卒業時のアンケートでは、「後輩のために役立ちたい」という気持ちが非常に強く、卒業してからも自分たちも貢献したいという気持ちがある。ほとんどの項目で高校生活が充実していたと高く評価している。

**(2) 進路実績について**

国公立に関しては、例年に比べ京都大阪が増えている。現役生が特に神戸大阪京都に多く合格。その他、特色入試などにチャレンジする生徒が多く、京都の理学部と文学部に1名ずつ、合格。教授からも非常にいい印象だと聞いている。今年度も推薦入試を考えている生徒が多いようだ。例年、医学部医学科志望は20名ほどだが、今年度は例年に比べ30～40名と多い。サポートの方法を考えているところ。

**(3) GLHSの取組みについて**

GL10校がそれぞれ学校独自の取組みや共通の取組みを行っている。10校共通テストやセンターテストの得点率、進路実績も比較している。平成28年度の評価はAAA。平成29年度の評価はこれから。

**(4) SSHの取組みについて**

本校SSHは4期2年目、来年の秋に中間ヒヤリングがある。SSHは基礎枠と重点枠の2つに分かれており、基礎枠は天高の中だけで理数教育の発展、重点枠は大阪の理数教育のレベルアップのために企画を考えるという形になっている。

本校の目標は「グローバルコンピテンシーを備えた研究者の育成」、国際的に活躍できる研究者を育てていくことを掲げている。基礎枠では創知という学校設定科目で課題研究の力を付ける取り組みをしている。国際性の涵養として、学校国際交流や創知の中でのサイエンスイング

リッシュ、Road to GL などを行っている。研究者として必要な倫理観を持ってもらうために、1 年 2 年の創知の中で研究倫理の講義を行っている。

イベントとして 2 点。1 点はアカデミア、研究者を招き、年間 10 回程度、講演を実施。2 点目は医系ライフで、大阪国際がんセンターで講義、研修を受け、手術室に入り、実際に行われている手術を見学する。

突出した人材の育成として科学オリンピック講座の実施、ウルトラレッスンという内容の講義+実験を通して専門的な研究者の育成を行っている。学会等への参加の推進を意識した中で、高校生向けの発表会に積極的に参加していこうという流れになっています。また研究部の活性化、研究部どうしをつないで、発表会を増やすことにも取り組んでいます。

30 年度のポイントとして、基礎枠においては創知の充実、洗練された評価方法の構築（ルーブリック評価）導入が挙げられる。入試が変わっていく中でどうやって対応していくのか、思考力をどうやって評価していくのか、課題研究をする中で、どのような力がついてきているのかを評価していくのか等という命題に答えていくために近畿 8 校や京都大学と連携をとりながら教育委員会とルーブリックの作成に取り組んでいる。

また海外研修の充実や医系ライフの拡大をめざす。基礎枠では台湾に行き研究発表をしている。英語での質問が 30 分~40 分くらいなされる非常に濃い研究会であった。また、医学部志望が多いので医系ライフの拡大、また学会等に積極的に参加していく。

次は重点枠です。まずは大阪サイエンスデイの実施ですが、今年は 10 月 20 日の土曜日、天王寺高校で 140 本のポスター発表、海外研修の発表交流会を行う予定。その後、優秀ポスターを選出し、大工大でオーラル発表を行う。次に近畿サイエンスデイ、本校と連携している近畿の SSH 校が集まって、研究を発表し合う、そして 8 月の全国大会に向けて頑張ろうという形で取り組んでいる。三つめが、海外研修で、今年は事前研修をしっかり積み重ね、アメリカのシリコンバレーに行き、本校から 11 名と GL10 校から 9 名の計 20 名での実施となる。研究テーマを持って研修し、課題研究と関連付けながら事後研修も充実させる骨太の企画となっている。

#### **(5) 天高育成プログラム 30 年度版。**

本校はたくさんのプログラムが実施されており、それがどういう位置づけや目的で実施しているのかをまとめたものを約 10 年前に作成した。これは教員の共通理解のために作ったもので、年度初めに全教員に配布している。

### **5. 質疑応答及び意見交換**

委員：毎年この会に参加する度に思うことだが、本当に頭が下がる思い。先生方が体を壊さずに目標に向かって頑張ってもらいたい気持ちでいっぱい。育成プログラムの「天高魂の涵養」という言葉がずっと生きていると思うと感無量。

委員：SSH や海外研修などの人数枠や費用はどうなっているのか？

事務局：SSH の事業で行っている海外研修は台湾とアメリカ。台湾は 20 名程度、基礎枠で援助し、生徒負担は低く抑えた。米国の重点枠の方は JST と大阪府からも援助してもらっているが、残りは本人負担なので費用全体はかなりの額になる。天王寺高校から 11 名、他の

GLHS校から9名が参加。研修内容は、企業見学と大学でのプレゼン研修をメインにしている。観光というよりも勉強メインの研修旅行であり、事前研修では立命館から講師を招いて、プレゼンの勉強や英会話の勉強をしている。10校が集まる、これが面白い。すぐに打ち解けて、互いにいい刺激になっている。

委員：研究倫理、著作権法などリーガルマインドの育成について、これらは人権にも関わってくると思うが、人権教育では、どのような取り組みを実施しているか？

事務局：1年は、SNS やいじめ問題、2年では卒業生の弁護士に来てもらって話をいただいている。また、LGBT の問題も取り上げている。3年生では雇用と人権、国際社会と人権というテーマも取扱っている。研究倫理も取り上げるなど、生徒の将来を見据え、生徒にとって必要になるだろうというテーマを意識している。

委員：非常に安心した。研究倫理という非常に難しい問題に取り組んでいてすごいと思う。高校生にどこまでやればいいのかなど、難しいところである。

事務局：課題研究も教科書があり、その中にも不正や改ざんなど「研究倫理」に関する言葉が出てくる。アメリカ研修のある生徒は、IOT について調べるなかで、自動運転中に車で事故を起こすと誰が責任をとるかといった研究をしている。

委員：素晴らしい内容で、年々グレードアップしている。ただ、教員も生徒もいろいろと負担がかかると思うので心配。限界を感じている生徒もいるのではないか？この学校の目標である「志をもったリーダー」になる生徒たちが弱者の立場をどのように学んでいくのだろうか。心の偏差値を高めようと中学校では意識している。学力だけではなく、人権や弱者の立場を考えられる人材の育成。発達障害や新しい障害も出てきているので、いろんな立場から考えられる子の育成も非常に大切。

事務局：天高生はとにかく忙しい。自分はここまでやったという自信につながる生徒もいれば、一方でしんどい思いをもつ生徒もいる。その生徒たちはどういうところからしんどくなってくるのかなどの見極めや、どのようにサポートしていくのかについて、昨年度から体制を作ってきている。また、天高ではお互いを、違っていいよね、と思う生徒が多い。

事務局：卒業生の中には、どのくらい自分は頑張らないといけないのか、と進学先で意識する者もいる。天高出身ということで、できるはずと見られることが多いという。自分はどこまで走り続ければいいのか分らなくなった、そういうしんどさがあると。生徒の走る速さはそれぞれ。速く走らないといけないと思すぎではないか？速く走っているから正しいわけでもなく、ゆっくり行く方がいろんなことが見えることもあるし、たどる道が違っていい。それは、人と違っていいということに繋がると思う。生徒にはこのような話をしてきた。速いことだけが良いことではないと思って卒業していく生徒もいると思う。

委員：学校経営計画の中で良いなと思ったのが「やさしさ」という言葉。やさしさ、誠実さ、思いやりが大切。仕事していると、職種を問わず、相手がどう考えるのかを想像することが大事だと感じているので、この「やさしさ」が含まれているのは非常に良いこと。

いろいろな場面で高校の卒業生とお会いすると、天高っばいって言われることある。それがもしかすると「天高魂」かも。キレイ、スマートというよりも、多少粗削りであってもガッツがあるとか、なにかに秀でているような教育がされているのかなと思う。

委員：自分が高三の時、進路指導の先生にはもっと放っておかれていた気がする。昔の天高よ

りも今の天高の方が内容が充実しているので、生徒にとっては一杯いっぱいになるのがよくわかる。同じことを聞いても、すぐに分かる者と自分であとで振り返ってから分かる者がいる。そこには差があって、いろんな進路もあるはず。進学実績を誇るだけの学校でなくても、その生徒にとっていい学校になってほしい。そういうところに目が届く進路指導であってくれたら大変うれしい。

事務局：「本当に何がやりたいのか」を大事に進路指導をしていきたい。生徒とともに進路を決めてきた。その子がしたいこと、それを見つけられるような指導、視野の広い考え方を伝えていきたい。

委員：世の中の流れや、本校の果たすべき役割を考え、理数科をつくるなど、時には大きな負荷をかけて走らないといけない時期があった。生徒たちも大変だったかもしれないが、今はそのレベルを超えた学校になった。取りこぼしもなく、進路だけでもないんだと。また、それに加えて伝統的な考えや行事もある。これをいかに外に発信していくのか、広報の問題だと感じている。

委員：天王寺高校のよき教育の在り方をどのように伝えていくか。「後輩のために役に立ちたい」が8割というのは、すごいこと。そのような学校のイメージをどんどんと発信して行ってほしい。

次回の予定  
11月24日(土)